

論文の要約

氏名：寺澤捷年

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

論文題名：吉益東洞の研究—日本漢方創造の思想

本論文は、中国の『黄帝内経』や『傷寒論』等の医書に、その淵源が見られる中国伝統医学が、隋～明時代のいわゆる大陸医学として日本に移入され、更に日本化され江戸時代中期に頂点に達した、いわゆる日本漢方における第一人者である吉益東洞の医学思想を、その生涯と著書を巡って明らかにするものである。

吉益東洞は『傷寒論』への復古を唱え、万病一毒説と方証相対論を確立した。これによって日本独自の漢方医学が成立したのである。具体的には、その天命説には荻生徂徠の古文辞学の思想的影響を受け、またその「毒」の思想には明の陳司成の『徽瘡秘録』の医論に感化される所があるのである。このように、本論文は、その理論的・思想的背景を、それまでの復古運動や新たな梅毒治療法等の実際を巡って明らかにしたものである。

以下、その詳細である。

序文

第一章

- 第一節 東洞医論の基本骨格
- 第二節 東洞の生きた時代
- 第三節 儒学革新の概観
- 第四節 中国における医学復古の動き
- 第五節 日本における医学復古の動き

第二章 思想形成の過程

- 第一節 安芸時代—東洞先生行状を読む（その一）
- 第二節 徽瘡秘録をめぐって
- 第三節 徂徠学と東洞
- 第四節 『史記』扁鵲伝
- 第五節 古医方との出会い
- 第六節 暗黙知と形式知
- 第七節 東洞における「知の創造」の方法論
- 第八節 オランダ医術と東洞
- 第九節 安芸時代における「知識の創造」の総括

第三章 医論の展開と臨床の実態

- 第一節 京都時代—東洞先生行状を読む（その二）
 - 第二節 東洞世に顕る—東洞先生行状を読む（その三）
 - 第三節 医断
 - 第四節 医事或問
 - 第五説 東洞先生答問書
 - 第六説 古書醫言
 - 第七節 類聚方
 - 第八節 方極
 - 第九節 方機
 - 第十節 藥徴
 - 第十一節 建殊録
 - 第十二節 建殊録附録
（『鶴台先生問東洞先生書』『東洞先生答鶴台先生書』）
 - 第十三節 東洞先生配剤録
 - 第十四節 東洞先生家塾方
 - 第十五節 生生乳をめぐって
 - 第十六節 並河天民と松原一閑齋
- 第四章 晩年—東洞先生行状を読む（その四）
- 第一節 幕命を振り切る
 - 第二節 還暦・家塾拡大を図る
 - 第三節 古希・故郷に錦を飾る
 - 第四節 最晩年・宇土侯と会見
 - 第五節 人となり
 - 第六節 もう一人の東洞
- 第五章 結語

以上